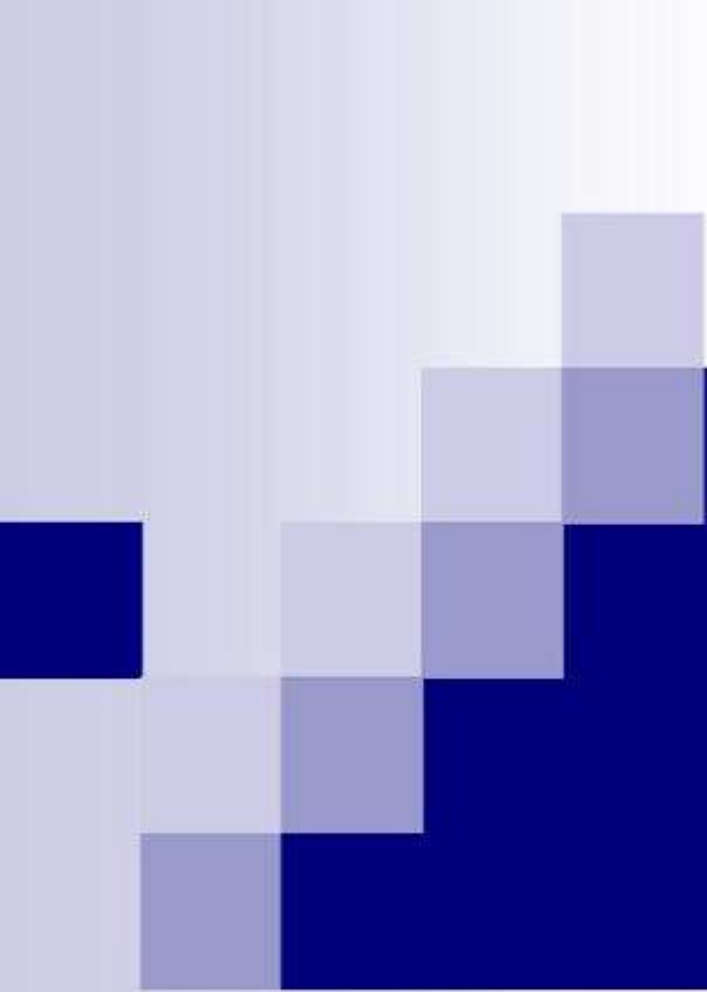




賢者の教え

賛美の礼拝

2008/6/22

知恵文学

- イスラエルには金言・格言がたくさんある
 - 旧約聖書：箴言・コヘレトの言葉
 - 外典：シラ書・知恵の書
 - タルムード
- これらの多くは「詩」の形で言い伝えられた
 - 印象に残る（ちょっとドキツとする）
 - 覚えやすい

コヘレトの言葉

- 「コヘレト」とは「集会を召集する者」「集会で語る者」という意味である
- 「エルサレムの王、ダビデの子、コヘレトの言葉。」(1:1)とあるのでソロモン王だと思われる
- ソロモン王は世界一の知恵者としてイスラエルの繁栄を築いた
- 箴言は世界の知恵文学の代表

コヘレトの言葉11:1～12:1

あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。

七人と、八人とすら、分かち合っておけ／国にどのような災いが起こるか／分かったものではない。

雨が雲に満ちれば、それは地に滴る。南風に倒されても北風に倒されても／木はその倒れたところに横たわる。

風向きを気にすれば種は蒔けない。雲行きを気にすれば刈り入れはできない。

妊婦の胎内で霊や骨組がどの様になるのかも分からないのに、すべてのことを成し遂げられる神の業が分かるわけではない。

朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな。実を結ぶのはあれかこれか／それとも両方なのか、分からないのだから。

光は快く、太陽を見るのは楽しい。長生きし、喜びに満ちているときにも／暗い日々も多くあろうことを忘れないように。何が来ようとすべて空しい。

若者よ、お前の若さを喜ぶがよい。青年時代を楽しく過ごせ。心にかなう道を、目に映るところに従って行け。

知っておくがよい／神はそれらすべてについて／お前を裁きの座に連れて行かれると。

心から悩みを去り、肉体から苦しみを除け。若さも青春も空しい。

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と／言う年齢にならないうちに。

未来のために分け合う

- 「パンを水に浮かべて流す」とは誰に届くか分からない贈り物をする事
- 「月日がたってから」: 忘れた頃に報いがある
- 「七人と、八人とすら、分かち合っておけ」: できるだけ多くの人と富を共有しよう
- 災いが起こった時助けてくれるのは人
- 「情けは人のためならず」

人生の価値は貯えた量ではなく分かち合った量で決まる

- 私たちの持っているものは正しく管理するよう預けられたものである
 - 富・時間・才能・・・
 - 自分で作り出したものは何もない
- 自分のためだけに使うことは愚かである
 - なぜ日本は物心ともに貧しくなったのか？
- 「受けるよりは与える方が幸いである」

神を畏れる

- 人間は自然を支配することはできない
 - 度重なる天災(人災?)・地球温暖化
- 胎内でどのように赤ちゃんは成長するのか？
 - 0. 1mm→50cm(大きさ) 1個→60兆個(細胞)
- わずかな科学の知識で人間は思い上がった
 - 自然を破壊し、命を軽視した

結果を恐れず勤勉である

- 明日のことは誰にも分からない
- 先のことを考えすぎると何も出来なくなる
 - 「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」
- 人間には本当の結果は分からないが、努力を惜しんではならない

人生を楽しむ

- 与えられた幸せを大いに楽しむ
 - 長生きも若さも
 - 思い通りに精一杯生きてゆく
- 不幸を受け入れることも大切
 - 何もかも思い通りにいくとは限らない
 - 現代人はつまずいたときに脆い
- 幸福も不幸も風のように過ぎてゆく

責任のある自由

- 無責任な自由が横行する時代
 - 何かを心から畏れなければモンスターになる
- 私たちのすべてを見ておられる方がいる
 - 「神はそれらすべてについて／お前を裁きの座に連れて行かれると。」
 - すべてのことは知られていて、記録され、裁かれる

創造主を心に留める

- 目に見えない何者かを畏れること
 - 目に見えているものが全てではない
- 何でも思い通りになると思わないこと
 - 明日のことは誰にも分からない
- 何も造り出せないことを忘れないこと
 - 「青春の日々にこそ、**お前の創造主**に心を留めよ。」